

青年海外協力隊(以下「協力隊」)2015年2次隊としてベリーズで活動していた黒潮町在住の徳永侑子さんがこの度、2年間の活動を終え帰国されました。活動期間中には「広報くろしお」へもベリーズ通信として寄稿していただいていた。今回は、任期を終えた徳永さんについて掲載します。

徳永さんが協力隊に興味を持ったのは中学生の頃。尊敬するソフトボール部の顧問の教員が同じく協力隊として活動していたことがあるという話を聞き、「自分も先生みたいになりたい」と興味を持ったそう。高校でもソフトボールを続けていたが、大学に入ると周りには自分よりも上手な選手がいたことで実力が通用しないことを痛感した。「ソフトボールだけでは生きていけない」、そう思った時、「そうだ、私は協力隊になりたかった」と中学時代を思い出したと言う。

ベリーズ国家スポーツ協議会に所属し、ソフトボールの普及活動をしていた徳永さん。赴任から8ヶ月後には、放課後に子どもたちへソフトボールを教え始めた。子どもたちはルールどころか、グローブの扱い方もわからなかった。そんな彼らが、徳永さんの帰国前には、上級生が下級生にルールを教えたり、グラウンドの整備を自ら行うようになっていたり成長した姿が見られた。「放課後になるとグラウンドへ走ってくる彼らの笑顔が印象的」、そう話す徳永さんの笑顔もまたきらきらしていた。

「ベリーズでの活動から、自分が一歩踏み出さないと何もできないことがわかった。私は周りに愛されていたなと感じ、感謝の気持ちが大きくなった」と協力隊の活動を振り返り、黒潮町の子どもたちにもぜひ薦めたいと話した。



ソフトボール普及活動をした徳永さん

## くろしお協力隊がゆく!



【今月の担当者】  
地域おこし協力隊  
卯月あすか

こんにちは、ふるさと納税を担当しております卯月です。この仕事に就いて町の産業を知ることができました。

ふるさと納税は、黒潮町ファンの方々、そして黒潮町を全く知らなかった方々と町との架け橋です。

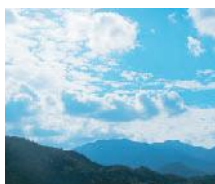
私もそうであったように、黒潮町は美しい海と、温暖な気候による豊かな山海の特産物がイメージされ、県外の方は憧れを持っておられます。高知といえば鯉、そのおいしさは格別だと寄附者様から多くの声が寄せられます。そのほか多種にわたる魚介類も大変人気があります。柑橘をはじめとする果物の多様さ、特に文旦は高知の名産であり、初めて食べる人は独特の歯触り、さわやかな風味に魅了されます。トロピカルフルーツも育てられており、見た目のおもしろさ、初めての味を楽しめます。ほかにも珍しいフルーツがありますので、生産が期待されます。

温暖な黒潮町では、人気の香菜や、砂地を生かして落花生や安納芋の栽培などもできるのではないのでしょうか。私が知らないだけで生産者の方々はいろいろな挑戦をされていることと思います。

また、黒潮町で黒砂糖が作られていることを私は初めて知りました。作りたての風味は、沖縄、奄美など南島のものとは違う個性があります。

美しい海からの恵みはお塩です。私も知り合いに送って喜ばれています。

まだまだ書ききれないほどの豊かな黒潮町の特産品をふるさと納税で知っていただき、そのおいしさを堪能していただいていることを実感しています。食べ物のみならず多様な工芸品、工業製品も好評で、これからも黒潮町の新しい顔と出会えることを楽しみにしています。



黒潮町の空と海